事例No.	3172
公表年度	R6
団体の属性	町村
団体名	和歌山県みなべ町

事例区分	公営企業

タグ	・下水道事業 ・事務の共同実施

事例種類	最適化

事例内容・タイトル

農業集落排水施設の公共下水道への統廃合

出典

上下水道の経営基盤強化に関する研究会③

【和歌山県みなべ町】
農業集落排水施設の公共下水道への統廃合

広域化等　下水道事業

和歌山県みなべ町生活環境課

● 取組の概要

経費の削減と梅加工工場の事業所排水を公共下水道へ取り込むため、下水道施設の統廃合を行った。

◆総事業費　接続工事費435,440千円

◆背景

- 平成16年に町村合併を行ったが、農業集落排水区域が８地区あり、少子化等による人口減少のため、継続した維持管理費等の確保が困難になることが予想された。
- この問題を解決するため、公共下水道区域を拡大し、下水道施設の統廃合を行った。

◆具体的内容

- 農業集落排水８処理区のうち、みなべ平野に位置する５処理区を公共下水道区域とした。
- 農業集落排水３施設は自然流下方式のため、処理施設手前のポンプを公共下水道管路と接続。２施設については真空方式を採用しているため、処理施設で汚水を吸い込みタンクで貯留し、圧送ポンプで公共下水道管路へ接続した（平成30年3月31日接続事業完了）。

◆効果

- 農業集落排水５施設を廃止することにより、維持管理費、光熱費、汚泥処理費等が削減された（▲約50,000千円／年）。
- 廃止した５地区には特産物である梅の工場が多く点在し、その事業所排水の取り込みが可能となった。これら事業所排水を取り込むことにより、1事業所当たり年間で約130～140万円の下水道料金の収入が増加した。

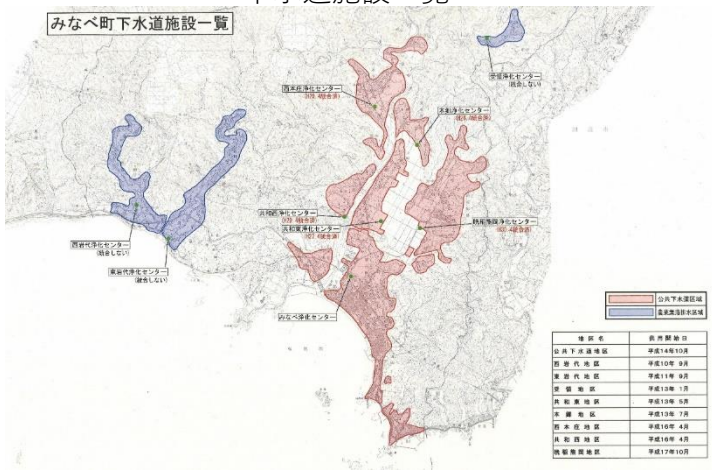
● 取組のポイント

- 継続して要する維持管理費や更新費用と統廃合後の維持管理費を経済比較し、統廃合を行った方が今後の経営に良いと判断したため実施することとなった。
- 公共用水域の水質保全に貢献できるようになり、事業所排水による苦情がなくなった。
- 廃止した農業集落排水施設については基礎の強さを活かし防災備蓄倉庫として活用。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　11,988人（令和5年1月1日時点）
- 行政区域内面積　12,028km²（令和5年1月1日時点）
- 処理区域内人口　10,534人（令和4年度決算）

下水道施設一覧



● 取組のスケジュール

- 平成18年４月に検討を開始し、平成23年４月に接続事業の工事着工。
- 平成30年４月から統廃合した５地区すべてについて運用を開始。

● 今後の展望

- 引き続き、事業所排水を取り込み、公共用水域の水質保全を図る。
- 接続率の向上に努め、効率的かつ経済的な汚水処理や維持管理に努める。